



平成16年11月30日
飯田 次
田 出 所
TEL. 3700-3657

落ち葉掃除

南沢 千野昭江

漸く美しい秋がやって来ました。蟬の鳴いていたスズカケの木の下で、いつの日も掃除されている方へ声をかけました。早40年もたちますが話し始め、「この木は夏でも葉（病葉）を散らすのよ。秋なんか一番大きなゴミ袋一杯で持ち上げられないので、少しずつ運んで大袋に詰め替えるの。私も歳だからいつ迄続けられるか」と嘆いておられました。

私などは、夏は日陰を求めて街路樹の下を歩き、秋にはハナハナと口ずさみ、落ち葉を踏みしめて……

街路樹——。古くは、天平宝暦三年（1791年）に、中国の制度を見習った僧侶によって作られ、旅人の安全、快適な交通を確保するためのもので、日本では街道や、社寺の参道が対象として考えられ、明治に入ってから現在の形になった様です。それにしても、40年間、は脱帽です。



用賀のまちが私の故郷

羽田 潤子

用賀生まれの母から想い出話をよく聞かされました。その時の母は、いつも笑顔でした。私にも沢山の思い出があります。玉電の線路にまたがった一円玉、畑を飛び交ういなご採り。大山街道を走る玉電のすぐ脇が、定先だった、玄關だった、自宅前をりりしい姿の母がパツカリパツカリと通り過ぎる事もあり、のどかでした。桜町高校の辺りは畑が多く、坂の上から見た大きな真ッ赤な夕陽は今も思い浮かびます。



故郷はどちらと聞かれた時、私の故郷は用賀の町と答えるでしょう。



まちの話題あれこれ

国分寺産緑の保全

柳田 丁吉 播磨哲夫

国分寺産緑は数百年昔に多摩川が武蔵野台地を削り作った高さ20mほどの崖地で、立川、国分寺から田園調布まで続き、区内では成城、阿部、瀬田、野毛、等々力を横切っています。

ここには豊かな自生樹林、湧水、動植物の生態など多くの自然環境が残り、連続する樹林が作る緑の帯の眺望は素晴らしい景観です。

この貴重な自然が近年の集合住宅建設等で急激に破壊と寸断が進み、消滅に迫り込まれています。

住民の保全への理解と協力が望まれます。区も現在、保存条例の検討を開始しています。



同窓会での話らしい

飯田 次

京西小は今年一三五周年を迎える。卒業生は二、三〇〇余人、一世紀以上の歴史のなかで近隣四校が京西小より独立校として生まれたことは云うまでもない。卒業生の中には旧代京西小を卒業し、五代目の児童が入学し、あるいは入学しようとしている。

今年、十一月七日に卒業生参加者が体育館に集まり、総会を開催、三回目の同窓会が催された。

古きを語り、同級仲間と語り、和やかな会になりました。

同窓会は三年に一度開催されますので、京西小卒業生の皆さん次回は是非参加してみませんか。



痴呆性高齢者「やまぼうし」グループホーム

水口 宏子

二子玉川田舎が、リニールとして「シティコート」二子玉川として生まれ変わりました。

7号館/階に介護つきグループホーム、やまぼうしが10月1日よりオープンしました。

時代に先駆けて（世田谷3番目）地域の痴呆性要介護者を、住みながら地域や家族との絆を保ちつつ、専門家の24時間体制の介護と支援の中で、共同生活が出来るように配慮されています。

個室(9)で今までの暮らしの延長も可能なプライベートな空間が確保されています。



木洩れ日

飯田 次

秋風と共に記憶が遠退いて行きましたが、今年の夏は暑い日が続きしました。

又、スポーツの分野ではアテネオリンピック、パリリンピック、米メジャーリーグのイチロー、松井と日本選手が大活躍。ここ数年、開窓祭の中にあつた日本人の心に少し熱気が戻りました。

然し、私たち市民生活を取り巻く世相は引き続き不安の渦。かつて、夏目漱石の門下、寺田實彦は「天災は忘れた頃にやってくる」との言葉を残していますが、度重なる台風による風水害、新潟県中越地震の爪痕、これら自然災害に加えて様々な人局災害も連日の様に報道されます。

今や、日本列島が不安定島になってしまった感さえあります。

一徳総イライラ、不修、排外、嫉妬、孤立……と暗い活字が並び、

そこで、街かどの明るい話題を三つ。
一、空がきれいになりました。ディーゼル車規制の効果。二、犬の散歩で落しものが少なくなりました。飼主のマナーの向上。
三、朝もやの中、軽やかなウォーキングの人影。身体の健康、心の健康、頭の健康。一人一人の健康づくりが、私たちの町の安全、安心を支えるとも云えます。



ひろば ご希望の方は出報所においでください

回覧

郷土紹介

二子の花街

三子玉川 池田良夫

多摩川の筋は將軍へ献上されたほど有名なが、川辺には、古来より川魚料理の宿が点在し、市中の行楽の地としての賑わいがあつた。中でも水光寺や柳屋では自前の屋形舟を持ち、漁師とセツトで納涼や舟遊びが盛んに行なわれた。

目の前の川で漁師が投網で採ったり、鰻鮎(蒸問)など、新鮮な魚と料理を供するので人気を呼んだ。

岸辺には、料亭、食堂などの酒席亭も軒を並べ、玉家亭、喜望館、三洲亭、玉子家、日の出家、富士見家、中家、町田軒、月乃家、中島家、密玉など、兵隊島

から玉川第二遊園地にかけて、行楽地として大いに発展した。(昭和初期)

料理と酒席となれば、当然、茶室、酌婦が付きもので、最初は目黒や渋谷四山の花街からの出張業者だったが、やがて旅館組合で認可を取り、茶室廻屋の組合つまり「見番」ができた。元々、川魚料理が売り物の観光地だったので、符合はなく、旅館家と茶室廻屋の二業地として存在し、後に三業地となった。

現在の玉川高島屋SCの南館の裏手から国道246号の高架下までの間に置屋が並び、三味線の音が聞こえる粋な花街の様相を呈していた。商店会でも柳を植え、格と柳の街路樹が四季の彩りを添えて花柳街の華やかさがあつた。

わがふるさと瀬田

瀬田町 桑野忠雄

「故郷は遠きにありて思ふもの」と「免道いしかの山 小鮒釣りしかの川」と、故郷というと思い浮かぶこれらのイメージを私は知らない。

瀬田の地に生まれ育ち、未だにこの地を離れた事がないからである。

不運な事に親も東京育ちなので、いわゆる「田舎」がなかった。

わが故郷

退職後、再び瀬田の人々との付き合いを始め、時、全ての人が暖かく迎え入れ、受け容れてくれた。

その時、心の底から実感した。

あゝ、これが「ふるさと」なんだ。

故郷とは、何も「遠く」になくとも、又、「山や川」が無くとも構わないんだ。そこに住む人々の心の中にこそ在るんだ。

用賀出張所

「出張所の窓口がかわります」

証明書自動交付機をご利用いただくためには印鑑登録証あるいは住民基本台帳カード、お持ちでない方は自動交付機カードのいずれかと、併せて暗証番号の登録が必要です。(11月1日から出張所などで受け付けています。)

お知らせ

「交付機はどこにあるの」

11月1日、等々力、上野毛出張所などに設置しました。2月1日から用賀出張所、二子玉川分室などにも設置されます。



「まちづくり出張所」では住民票の写しなどの証明書の交付は、証明書自動交付機をご利用いただけます。



今年の日本列島はさんでんな目にあつた。

台風、台風、地震と次々に襲って来た。

その上、もっとやりきれない辛いことがありました。27年間も待って待って、やっと帰って来たのが小さな遺骨。

天災も、事故も持って行き場のない怒り……

こんな中であった一つだが暑ばしいニュースにホッとした。紀官様のご婚約が内定したと新聞の一面にすずやかな笑顔がありました。さあ、今年も残すところあと少し。

いいことがありますように神様に祈る気持ちです。

(千野)